

『かたち』と『色』の120分 - 基礎から学ぶ 臨床技工のポイント -

伊原 啓祐

臨床で求められる歯の『かたち』と『色』の再現は、専門的な知識と技術が必要とされます。しかし、形態付与や色調再現に関する教育は様々で、専門的な卒後研修機関で学ぶ方や、セミナーや講演会で情報を得る方がいますが、多くは専門学校での基本教育と職場での上司や先輩からの指導によるものだと感じています。これらの分野においては、感覚的な要素が多く、言葉で表現することが難しいことから、指導者の理解の深さがその後の技術の効率的な向上に大きく影響すると考えています。

本講演では、16年間の卒後教育機関での教員経験を活かし、臨床で求められる『かたち』と『色』の理解と再現について、基本からわかりやすく解説します。これにより、自身のスキルアップを目指す方や後輩の指導に役立てたい方など、実践に役立つ内容をお話ししたいと思います。

『かたち』については1本1本の形態の重要性だけでなく、それをどのように排列し、咬ませるか、CADデザインに活かすためのポイントをまとめます。『色』については、シェードテイク画像の色調の読み取り方を細かく解説し、色調再現の技術について、理論と実践の両面からアプローチします。

本講演を通じて、形態と色調の再現技術に対する理解を深め、臨床での質を向上させるための一助となれば幸いです。

1999- 2001	日本歯科大学附属歯科専門学校 (現 日本歯科大学東京短期大学)	
2001- 2003	鶴見大学歯学部歯科技工研修科	研修生
2003- 2005	株式会社 オーリアラ	
2005- 2006	有限会社 エースデント	
2006- 2022	鶴見大学歯学部歯科技工研修科	
2022-	i- Dental Lab	開設

クラレノリタケデンタル公認インストラクター

「補綴再製をなくすためのアナログとデジタルの視点」

佐野 隆一

補綴再製をいかになくすか？というのをテーマに活動をしてきました。2018年に出版された拙著（『補綴再製をなくすための臨床テクニク 24』）は第3刷となり、「日常臨床のトラブルをなくしたい」「良質な歯科医療を提供したい」というのは多くの歯科医師、歯科技工士の方々が思っていることなのだとあらためて感じています。

この間、デジタルデンティストリーも普及してきました。私もデジタル技工が増えてきましたが、より良い補綴物を提供するためには、やはりチェアサイドとラボサイドの連携はあった方がいい、というのはこれまでと同じです。

そこで、まずは「補綴再製をなくすためのアナログ視点」として、印象や模型、咬合採得についてお話しさせていただきます。寒天アルジネート印象で精度の高い補綴物を作るためにはどうするのか？シリコーン印象でも不適合な補綴物ができるのはなぜか？咬合調整を減らすためのポイントはなにか？すべての臨床がデジタルになるわけでもなく、しかし多くの情報はデジタルになってきている今だからこそ、チェアサイドとラボサイドで共有しておきたい内容です。

また、「補綴再製をなくすためのデジタル視点」として、現在取り組んでいるデジタルの臨床も合わせて紹介させていただきます。デジタルだからこそ気をつけたいポイントはなにか？スキャンの誤差に対してどう対応しているか？アナログを活かしたデジタル活用とはどういうことか？まだまだ確立された手法ではありませんが、この試行錯誤が参考になればと思います。

補綴再製をなくすというのがテーマではありますが、そこに関わる技術とコミュニケーションを通じて、デジタルだけではなしえない、歯科技工士という“人”に関わる意義を共に考えていければ幸いです。

講師略歴

佐野 隆一 Ryuichi Sano

株式会社ラボコミュニケーションズ 代表取締役

1999年 日本大学経済学部産業経営学科 卒業

2001年 東京医科歯科大学歯学部附属歯科技工士学校 卒業

2001年 医療法人社団幸生 壱番館デンタルオフィス 勤務

2008年 東京医科歯科大学歯学部附属歯科技工士学校 非常勤講師

2009年 スタディグループ D-Technications 設立

2011年 ヘレウスクルツアーージャパン 勤務
2014年 デンタルデザイン ラボコミュニケーションズ 設立
2015年 日本歯科技工士会 認定講師
2017年 株式会社ラボコミュニケーションズ 設立

■主な受講コース

くれなみ塾、オーリアラ吉澤セミナー2期
日本臨床歯科補綴研修会8か月コース、総義歯臨床実技コース

■主な執筆活動

- ・ラボコミュニケーションの徹底活用！歯界展望, 2007(8)
- ・デンタルテクニシャンから患者さんへの情報発信と価値の共有. 日本歯技, 2010(3)
- ・1歯補綴から考える Dr-DT-DH チームアプローチの本質（前編・後編）. QDT, 2010(10, 11)
- ・Technicationー「特別」ではない「日々」の臨床へのアプローチ. QDT2012(7)
- ・東日本大震災における被害・復興・支援活動 311 歯科界の記録. 日本歯科新聞編, 2013(3)
- ・選ばれる歯科技工士になるための価値と戦略. 日本歯技, 2015(11)
- ・インプラントフレーム設計の自由度を高める加工法と締結技術. 歯科技工, 2016(1)
- ・チェアサイドとラボサイドの連携をスムーズにする補綴再製ゼロプロジェクト. 歯界展望, 2016(4)-2017(3)
- ・再製を防ぐためのラボコミュニケーション. 歯科技工別冊, 2017(12)
- ・ベテラン歯科技工士から若手に伝えたい“知の継承”（前編・後編）. 歯科技工, 2019(1, 2)
- ・視覚で親しむ歯科技工. デンタルハイジーン, 2021(7-12)

【書籍】

チェアサイドとラボサイドで共有したい
補綴再製をなくすための臨床テクニック 24
医歯薬出版株式会社
2022年4月10日 第1版第3刷発行